

【演題】異なる発育ステージにある胚集団の胚質を定量的に比較する

【演者】水野里志¹、橋本 周^{2, 3}、大垣 彩¹、佐藤 学²、福田愛作¹、森本義晴⁴

(¹IVF 大阪クリニック、²IVF なんばクリニック、³大阪市立大学大学院、⁴HORAC Grand Front Osaka クリニック)

【目的】治療効果や培養液などの有効性評価に胚質を比べる場合がある。これまで、集団間の胚質の比較には良好分割胚率や胚盤胞率などが用いられてきたが、それらは同一の発育ステージ間の比較であった。今回、我々は、異なる発育ステージにある集団の胚質を定量的に比較するスコアシステムの作成を目指した。このような、スコアシステムの最低限の要件は、数値で示されること、同一の胚集団を異なる発育ステージで評価した場合に同じスコアになること、異なる胚質の集団を比較した場合に差が出ることであり、この3つの要件を満たすスコアシステムを作成し、検証を行った。**【方法】**まず、当院で単一胚移植を行った39歳以下の症例(1610周期)を対象とし、Day 2, 3, 5における胚グレード別の臨床妊娠率を算出し、その妊娠率を基に胚グレード別に数値のスコアを設定した。次に胚発育が良好なA群(50周期、胚数479)、不良なB群(50周期、胚数238)を使用し、作成したスコアシステムが有効に機能するか検証した。検証1:同一の胚集団を異なる発育ステージで評価した場合のスコアが等しくなることを確認するため、各群内のDay 2, 3, 5における平均スコアを比較した。検証2:異なる胚質の集団を比較した場合に差が出ることを確認するため、群間で同一ステージ及び異なるステージ間の平均スコアを比較した。なお、対象患者には、治療データを後方視的研究に用いる場合があることに対して同意を得ている。**【結果】**各群内のDay 2, 3, 5における平均スコアに有意な差は認められなかった。A群のDay 3, 5のスコアは、B群のDay 2, 3, 5のスコアと比較して優位に高かった。**【考察】**今回の検証では、作成したスコアシステムが、目標とした3つの要件を満たしていたことが示された。したがって、今回作成したスコアシステムを用いることで、異なる発育ステージにある集団の胚質を定量的に比較することができる可能性が示唆された。